



卒後研修を終えて

伊豆今井浜病院 瀬川啓史

当施設や地域の特徴について

いよいよ夏が到来し、セミの鳴き声が暑さをいっそう増幅しているようですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。今月担当します、地域医療振興協会 伊豆今井浜病院のNDC5期生せがわひろふみの瀬川啓史と申します。

まずは、地域の紹介と、病院の概要について説明をします。当施設は、東海地方に属し東京からおよそ2～3時間程度の静岡県の伊豆半島東海岸に位置しています。山梨県とともに富士山が跨る県として有名で、海の自然・山の自然両方が楽しめます。伊豆エリアは、静岡県の東の端にある伊豆半島全域を指しています。太平洋に突き出すような形になっており、駿河湾と相模灘を隔てています。春は河津桜、夏は青々と広がる美しい海、温泉など春夏秋冬で楽しめるイベントが多く、観光客の多い地域です。機会があればぜひ訪れてみてください。

当施設は、病床数100床で2次救急の救急医療告示病院です。伊豆地域の救急は、内科系や外科系で当番医制をとっており、近隣の病院と協力しながら地域医療を支えています。当施設の構成としては、急性期病棟・地域包括ケア病棟も2病棟と訪問看護ステーション、看護小規模多機能型居宅介護を昨年11月に開設しました。また、海が一望でき、今井浜海岸駅とエレベーターでつながっているため伊豆急行電車と通われる患者さんにとって、とても便利な病院です。

特定ケア看護師について

自分が特定ケア看護師になろうとした動機は、特定行為研修を受講することで、アセスメント能力の向上や病院や患者さんのために何かしら役に立てるのではないかと漠然とした理由でした。今まで看護師視点で患者さんと関わることが主でしたが、特定行為研修で臨床推論や実習の中で集中治療医などさまざまな科の医師などから指導を受け、医学的視点を学ぶことができ、患者さんの病状の理解が以前よりもさらに深めることができました。

そのような実習期間や卒後研修が終了し、3ヵ月が経過しました。現在は病棟所属ではなく、看護部に所属し、さまざまな活動をしています。現在の主な活動内容は、外科の患者さんへの介入(脊椎麻酔時の循環動態の管理、予防的抗菌薬の投与、術前後の輸液の調整などの実施)、婦人科の手術の第二助手、整形外科の患者さんへの介入(現在、整形外科医1名のため、主に地域包括ケア病棟の患者さんの定期処方¹の代行入力・カルテの代行入力・不眠時や不穏時などといったトラブルの対応を実施)・内科の患者さんの介入(自分は卒後研修の中で、内科系を回っていき現在は内科医指導の下、内科疾患の管理を学ばせてもらっております)。ほかには、医師が内視鏡や外来などで手を放すことができないとき、医師直接指示の下、救急の初期対応などを行っています。また、発熱患者さんのCOVID-19の検体の採取などを行っています。病棟から採血困難な患者さんの採血の実施など



当院から見える景色

といったことを主な日常的な業務として行っています。後は、連絡があればその都度、病棟や外来へ出向き業務を行っています。

最近感じるがあります。特定行為を実施する中で、例えば抗菌薬の臨時投与などの行為を行ったとします。ただ、抗菌薬の臨時投与などの特定行為を実施して終わりではなく、抗菌薬を投与した後の患者さんの経過を責任もって観察し、中止はいつするのか？ などといった、始まりから終わりまで責任を持ち介入していくことの大切さや、その医療行為を行う必要性・病態を把握することの重要性や、患者さんを総合的に診る・見る能力を身に付けることの必要性を日々感じています。患者さんにとって何が一番よい介入になるか等を考える機会が以前より増えたと感じる日々を送っています。まだまだ経験・知識も不足している部分が多いので臨床の中で学びを増やし、次に活かせるような医療・看護を提供できるようにしていきたいと思

います。

以上のことを踏まえて、JADECOM研修アカデミーセンターNP・NDC研修センターのホームページにあるように「診る」と「見る」を兼ね備えた看護師になれるように日々精進していきたいと思っています。そして「特定行為を実施する看護師」だけでなく、臨床推論をもとに「診る」と「見る」とで患者さんを全人的にとらえ、医療・看護を提供できる看護師になりたいと思います。

現在、勤務する施設は土地柄のせいもありますが、入院する大半の方が高齢な方で、基礎疾患を抱えている人が多くいます。そういった患者さんの全身管理ができるように、今後は内科的な疾患に関する勉強もさらに進めていき、日々の業務に活かしていけるように頑張りたいと決意しています。